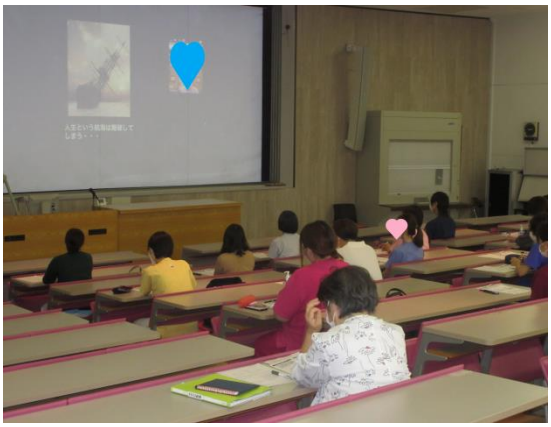
教育プログラム

～生活を支える看護の研修～（経年 6 年目以上研修）

患者・家族のセルフケア能力の維持、発展するための知識と技術を習得し、セルフケア看護の実践、推進、教育ができるようになることを目標としている研修です。

9 月にナラティヴエシックス・物語る倫理～患者との共同著作～、セルフケアとは、SCAQ についての講義を受けました。ナラティヴ＝物語＋語りであり、語り手と聞き手の語りと傾聴の返還と循環であることを学びました。臨床とは、患者の人生の物語を共同著作する場であり、多職種、患者、家族の物語を、それぞれの情報を持ち寄り、情報をすり合わせ、一つの物語を一緒につむぐ努力をすることが大切であることを講師の金城先生より教えていただきました。





そして、当院が大切にしているセルフケア看護は、一人ひとりに寄り添い、その人の生活にまで目を向け、「どのようにありたいか」という動機づけや意思決定を支えることにあります。部署での実践期間は、患者、家族に SCAQ の質問用紙を用いて、対話を通した支援を行います。患者、家族との信頼関係を築き、共に生活を振り返ることができそうな状態を見極めます。相手の話を受け止めて専門的な知識を提供し、その人自身が生活の中で実施できそうなことを共に探すことを実践しました。1 月のグループワークでは、セルフケア看護の実践者として、自分の看護をグループメンバーと共有することができる研修です。

